

事業企画戦略室会議 (平成 27 年度第 1 回)

議事録

2015 年 4 月 8 日 (水) 開催

時 間	14:00～17:00		場 所	地盤工学会 3 階中会議室		
大 林 淳 室 長	○	保 高 徹 生 幹 事	○	高 梨 俊 行 室 員	○	
高 橋 英 紀 室 員	○	並 河 努 室 員	×	南 部 い づ み 室 員	○	
堀 雅 明 室 員	○	山 田 岳 峰 室 員	○	渡 邊 康 司 室 員	○	
渡 邊 保 貴 室 員	×	事務局：松本雅樹		事務局：伊佐治敬	○	
小 川 和 也 室 員	×	坂梨利男オブザーバ	×	小林孝彰オブザーバ	○	

○：出席 ×：欠席 △：未定

【議 題】

議事録担当者の選出 → 保高 室員

1. 前回議事録の確認 (渡邊室員)
承認された。

【別紙- 1】

2. 理事会報告 (関連部分のみ)

【別紙- 2】

- ・和田理事による情報処理学会のヒアリングに関するお伺いについてのご報告。
- ・事業企画戦略室が対応する予定のマネジメントサイクルの確立については理事会で承認され、来年度から実施。
- ・H27FY の予算案が承認された。
- ・書籍販売方法については、経費削減の観点から委託販売とする方向で調整中とのこと。

3. 2009 年中長期ビジョンアクションプランの検討結果と
事業企画戦略室の今後の活動について

【別紙- 3】

○2009 年中長期ビジョンアクションプランの検討と今後の課題

①アクションプランの抽出と整理：山田室員より

- ・ 2009 年策定中長期ビジョンアクションプランについて、63 のアクションプランを 6 つの大項目に整理し、フォローアップし易い状況にした。
- ・ 2009 年策定中長期ビジョンアクションプランは各所で忘れ去られている可能性はあるが、多くの検討が事前になされており、これらの内容は各部の方向性の基礎となっていると考えられるため、今後も継続してフォローアップをしていくことが必要。

②会員アンケートによる課題の抽出：並河室員

- ・ 2013 年に実施した会員アンケートの結果について資料作成

③重点アクションプランの検討結果

a) 情報発信・広報の強化：保高室員

- ・ 広報委員会のヒアリング結果を基礎とした資料を提示
- ・ 委員会成果をもっと見やすくするべきとのヒアリング結果に対して、委員会成果は学術化→アーカイブ化→電子図書館とリンクできれば良い、との意見が出た。
- ・ また、SNS の活用方法については、今後、どの媒体と中心に活動するか、さらに SNS 活動自体の必要性も含めた検討が必要だ、との意見が出た。

b) 成果の公開の推進：並河室員

- ・ 成果の公開の推進については、並河先生 (2014.11.11 作成資料) を基に議論を進めた。

- ・英文基準の位置づけについて、フォローアップをする方法が必要との意見が出た。
- ・電子図書館については、現状のシステムを前提とした上で、関連各部と事業企画戦略室のメンバーを含めて活用のあり方を考える WG を立ち上げるべき、との意見が出た。

c) マネジメントサイクルの確立：高橋室員・山田室員

- ・マネジメントサイクルの確立については、新規提案されたアンケート・評価システムについて、大林室長より全委員会を対象とした回答記載のお願いをすることになった。

7月：アンケート依頼、8月：アンケート締切・戦略室意見を決定・・・

10月理事会メンバー配布・・・等のスケジュールとなった。

d) 組織の活性化：南部室員・堀室員

- ・組織の活性化について、7つの検討結果が示されており、「地盤工学会の部会・委員会に興味がある会員が、参加しやすくするような方策を考える」、「会員数の減少が続いた場合の学会としてのシナリオを検討しておくべきではないか」、との意見が出された。

e) 健全な財政基盤の確立：渡邊室員・保高室員

- ・学会誌の電子化によるコスト削減については、会誌部の方で検討が会誌されているとのこと確認され、事業企画戦略室はウォッチしていく方向性でよい、となった。

f) 会員・一般向け教育の充実：山田室員・小川室員

- ・課題4の地質品質判定士についての議論と合わせて実施した。

○今後の中長期課題：当日議論

- ・当日記載された課題以外に、アカデミックロードマップの活用方法について、所管部署がないことから、今後の検討課題では、という意見が出された。

・渡邊保貴さんから、「電子化に強い重みづけ(戦略室から事業方針の提言)、電子書籍の充実(研究委員会活動成果はすべて電子書籍候補。委員会相互評価。)、戦略室と広報とダイバーシティを統合した運営委員会が企画と電子化を担う。」の3点のご提案を頂いた。特に3番目の提案(3点ともリンクはしているが)は重要であり、次回以降の検討課題とする。

4. 地盤品質判定士について (中村理事御出席)

【別紙- 4】

- ・地盤工学会の資格制度保有についての検討経緯を大林室長から説明
- ・地盤品質判定士の現状について中村理事から説明

議論

○前提条件について

- ・地盤品質判定士の収支計算、収支見通しは無いのか。これによって目標とすべき規模などを考えるべきでは、との意見が出た。

・本資格の学会内での意義付けについて、学会内での議論は既に終わっており、これによって資格制度が始まっていると理解すべきであり、本議論は、スタートしている地盤品質判定士の利活用法を議論していくべきではないか、との意見が出た。

- ・アイデアを具現化するために動く人材がいらないのではないか。その人材確保(WGなどで)を進めるべきではないか、との意見が出た。

→対応として、小川室員が地盤品質判定士担当として加わっているので、次回以降は小川さんを中心に議論を進めることとする。

○以下、議事録に掲載するかは要判断ですが、良い情報集だと思います。

- ・ネーミングの問題：「地盤品質判定士」とはいえ、建築士会とのやり取りを考えると判定業務ができないのではないか。したがって、地盤アドバイザー、地盤プランナー、地盤ソムリエなどのよう

な名称にしてはどうか。

- ・例えば、「地盤アドバイザー」をクリックすると、地盤アドバイザーが所属する会社が見つかり、そこに相談できるようにできるのではないか。(居酒屋 チェーンの店舗検索のような感じ)
- ・8団体の資格の相互乗り入れ：どこかの団体の資格を取れば、他の団体の資格を講習などの受講により得ることができる。あるいは、一定の範囲までの有資格者としての権利を得ることができるなど、相互の相乗りができないか。
- ・例えば、受験者が少なくなった場合、どこで撤退するのか。あるいは、どのような撤退の仕方があるのかの検討も必要。あるいは、100名程度の規模でも採算性が取れるような制度にする。
- ・更新の回数や年数などによって表彰する。
- ・学会で講習の受講履歴などの証明書を発行できないか。(CPDで既に実施?)

5. H27年度の体制

- ・今回限りで退任の山田様、高橋様からご挨拶を頂戴した。

7. その他

- 1) 第1回事業企画戦略室会議の開催日確認：平成27年7月14日(火)14:00~17:00(予定)
- 2) 次回理事会への提案事項
 - ・審議事項：なし
 - ・報告事項：本日議題3で議論した中長期ビジョンアクションプランの検討と今後の中長期課題についてメール審議を経た後に5月15日の理事会で報告する事とした。
- 3) 配布資料印刷について
 - ・次回から電子媒体出の配布を基本、議事次第は全員分準備する。
 - ・全資料については、議事録対応者用に1部のみ準備(理事会資料準備しない)。